

アンケート調査結果

町では「生ごみ」と「食品ロス」の抑制、減量化、適正処理などを検討するため、昨年度アンケート調査を実施しました。ご協力ありがとうございました。アンケート調査結果の概要と集計(抜粋)については以下のとおりでした。

- ・調査期間 令和4年11月中旬～12月中旬
- ・調査対象 小坂町民1,000世帯のうち、490世帯から回収(回収率:49%)
- ・調査方法 無記名記述式、郵送回答

●集計結果の概要

問Aの設問では、新たに指定する袋を使った生ごみの収集処理方法として「分別収集」と「持込回収」の2つを提示し、それぞれへの協力意識を調べた。その結果、協力に前向きな意見(両方もしくは片方へ協力)は全体の63%にあたり、半数以上の町民が協力的な意見を示したが、新たな生ごみ収集事業の実施のためには町民への丁寧な説明が必要であると考えられる。

食品ロスへの関心・取組について質問した問Bと問Cの集計結果からは、9割の町民が食品ロスの問題を知っており、関心の高さが示された。実際に食品ロス削減のために複数の取り組みを行っている町民が多いことがわかった。

問Dでは、小坂町が新たな「生ごみの収集事業」を始める場合にその経費を町の予算から支出するという仮定のもと、新たな事業への評価と事業実施の支払意思額(事業実施のためにあててもよい予算金額)を調べた。

その結果、金額によっては「実施すべきと思う」という回答は306(71%)であり、金額にかかわらず「実施すべきと思わない」という回答は123(29%)であった。

問A 今後、新たに指定する袋で生ごみの分別収集・持込回収を行うことになった場合、あなたの世帯は協力しますか。

※分別収集とは、各地域のごみ集積所に生ごみを出し、行政が収集すること

※持込回収とは、各家庭の生ごみを指定した場所に各自持ち込むこと

(有効回答数:449人)

両方とも協力したい	分別収集のみ協力したい	持込回収のみ協力したい	持込回収のみ協力したい	わからない
94	196	7	28	124

問B 家庭由来の「食品ロス」は、食べ残し、手つかずの食品(直接廃棄)、皮の剥きすぎ(過剰除去)などが発生要因となっています。あなたは、「食品ロス」が社会問題となっていることを知っていますか。

[よく知っている140人][ある程度知っている280人][あまり知らない36人][まったく知らない3人]

(有効回答数:459人)

問C あなたは、家庭での「食品ロス」を減らすために取り組んでいることがありますか。

当てはまるものをすべてお選びください。(複数回答)

[冷凍保存を活用する292人][残さずに食べる226人][料理を作りすぎない195人]

[「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する282人]

[食べきれぬ量を購入する193人][日頃から冷蔵庫の中身を把握しておく187人]

[その他、取り組んでいることはない22人]

●新たな生ごみ収集事業への評価(有効回答数:429人)

問D 仮に、小坂町が新たな「生ごみの収集事業」を始める場合、その経費を町の予算から支出することになりますか…

あなたはこの事業を実施すべきだと思いますか？

[実施すべきと思う306人(71%)] [実施すべきと思わない123人(29%)]

また、町民一人当たりの年間支出がいくらまでであれば、この事業を実施すべきだと思いますか？

